

会 議 録				
令和6年度第3回 在宅医療・介護連携 推進会議	日 時	令和7年2月6日(木) 午後7時～午後8時20分	場 所	Web会議及び 市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	委員長 齋藤 寛和 委員 森田 洋彰 委員 齋藤 優喜子 委員 中村 陽子 委員 小嶋 理絵 委員 齋藤 敦 委員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター) 委員 田口 重和 (小金井みなみ地域包括支援センター) 委員 高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター) 委員 久野 紀子 (小金井にし地域包括支援センター) 委員 伊藤 直樹 (日常療養支援・多職種連携研修部会長) 委員 大井 裕子 (急変時対応・看取り支援部会長)		
	事務局	高齢福祉担当課長 磯端 洋充 介護福祉課主査 濱松 俊彦 介護福祉課包括支援係主事 原 千咲 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
傍聴の可否	◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開 会				
2 議 題				
(1) 令和6年度お元気サミット・介護みらいフェス実施報告				
(2) 入退院支援多職種フローについて				
(3) 小金井にし地域包括支援センターの移転について				
(4) 「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」について				
(5) 各部会における検討状況について				
3 その他				
(1) 委員任期について				
(2) 次回開催予定 令和7年7月10日(木) 午後7時から				

## 4 閉 会

### 1 開 会

(事務局)

本日の連絡事項を申し上げる。1点目、本日の出席者については、平田委員、菊谷委員、河西委員から欠席の連絡があった。また森田委員から遅れて出席する旨の連絡があった。2点目、配付資料の確認についてである。3点目、会議録の作成については本会議の会議録の作成方法は発言者の発言内容ごとの要点記録と決定しており、事務局にて録音を行っている。4点目、傍聴について、小金井市在宅医療・介護連携推進会議設置要綱第9条で本会議については原則公開と定めているが、本日現時点で傍聴者はなし。

### 2 議 題

#### (1) 令和6年度お元気サミット・介護みらいフェス実施報告

(事務局)

今年度実施したお元気サミット・介護未来フェスの概要について報告する。

11月13日(水)と14日(木)の2日間にわたり、小金井 宮地楽器ホール小ホールとマルチパーパススペースにて、介護事業者連絡会の催しや医療介護連携、認知症、介護予防、生活支援など、地域包括ケアシステムを構築するための様々な取組の催しを中心に実施した。

1日目の午前は、介護事業者連絡会による「大介護防災安全博」として、いろいろな福祉用具の展示と、小金井警察、小金井消防署の方にも協力いただき、それぞれブースを設け、防犯・防火等に関する相談を受け付けられるようなイベントとなった。午後には、認知症基本法成立元年であることから、広く認知症に対する普及啓発を目的に、若年性認知症の丹野智文さんがモデルとなった映画「オレンジ・ランプ」の上映会を実施した。映画会の上映の後、参加した方と少し内容について振り返る時間を設け、認知症に対する理解をより深めていただくような工夫をした。

2日目は、介護予防の講演として、武蔵野中央病院リハビリテーション科の理学療法士の先生にお話しいただいた後、個別相談にも応じていただいた。この後に実施された生活支援体制整備事業の参加者の方々が多く聞いていらっしやった印象である。生活支援体制整備事業は、市内に様々な高齢者のサロンやサークル活動等のコミュニティーが、活動の紹介ブースや実演を通じて、まだ地域へ出てきていない高齢者に参加の機会を促していくような内容を実施し、今回のイベントで一番人が集まったイベントとなった。サークルの活動紹介をほかの参加者が鑑賞しながら、後方ではさらに別のサロンの方などがブースを設け、かなり混雑した。内容の都合上、参加者の多くは演者側という側面はあったが、お互いの活動を知り合うよい機会になったとの意

見を多数いただいている最後は医療・介護連携推進事業の朗読劇と大井委員による講演となりまして、後ほど詳細に報告する。

また今年度もフェスティバルコートに介護事業者連絡会の方がキッチンカーや大道芸を行う方などを手配してくださり、お祭り感も出ていたのではないかと感じている。

イベント全体での参加者数は303人と、昨年度より60人ほど多くなり、コロナ禍以降では最多となった。

展示に関しては、認知症、生活支援、介護予防等の事業別と、介護事業者連絡会による主に訪問介護、訪問看護、通所等のサービスごとの展示を実施した。医療介護連携では今年度から歯科医師会にも協力いただいた。昨年同様、医師会、薬剤師会にも展示に協力いただき、その他医療介護連携に関する案内等も配布した。ほかにも警察、消防からも展示に協力いただいた。

準備・撤収では、たくさんの医療・介護関係者の方に協力いただき、いろいろな職種の方や久しぶりにお会いする方などもおり、お元気サミットを通じて多職種連携・交流がなされていると実感した。

続いて、医療・介護連携推進事業の見取り市民公開講座について、第1部は、急変時対応・看取り支援部会の皆様に登壇いただき、昨年に引き続きお母さんを自宅で看取った娘姉妹の話を朗読形式で発表いただいた。今年度は朗読劇の中でカンファレンスを実施し、家族や本人の意向に沿って支援が決められる様子などについて、より理解いただける内容となっていた。第2部は、大井委員から「人生の最後まで私が大切にしたいこと」と題して、部会で作成した看取りパンフレットを使用して講演いただいた。朗読劇を主として、各職種からの説明、劇中カンファレンスなど、昨年よりもさらに趣向を凝らした内容となった。参加者は45人で、未回答の方を除くとほとんどが「よかった」または「とてもよかった」と回答いただいている。少し回答率が低かった点が課題と考えている。「とてもよかった」「よかった」と評価した理由には、知識の面に関する評価のほか、ACPにつながるような感想もあり、普及啓発事業として非常に効果的なものであったと感じている。次年度以降の普及啓発活動については、さらに充実できるよう、現在、別途予算も要求している。詳細は次年度予算案の市議会での議決後となるが、可決されれば医療・介護連携推進事業の中で新たな活動が可能となるので、次年度以降改めて本会議において普及啓発活動の内容等に意見をいただきたい。

(齋藤委員長)

年々盛んになっており嬉しい。生活支援体制整備事業は一番人が集まったようだが、演者も参加者して数えているのか。

(事務局)

多くのサークルの方がその場所に集まってお互いの活動を紹介し合う内容のため、厳密にコミュニティーに入っていない方をカウントするのが難しかった。当日そこに

参加された方を参加者としてカウントしている。

(齋藤委員長)

一般市民もたくさん入っていたと理解してよろしいか。

(事務局)

そのように認識している。

(齋藤委員長)

では、また来年はより一層工夫を凝らしていきたい。

## (2) 入退院支援多職種フローについて

(事務局)

小金井市入退院支援多職種フロー図を作成した。入退院支援部会で継続して検討いただいていたが、先日の部会で内容を一旦確定したので、報告する。

なお、運用の中で利用する方が分かりやすいように適宜改定していくことを前提にしている。運用の中でお気づきの点等があれば、お知らせいただきたい。

部会の中で、フロー図を1枚ではなく、多職種の動きと、場面に応じて必要な情報に分けることと決めた上で、それぞれの内容にいただいた意見を基にまとめた。公開・周知に当たり、分かりやすいようにフロー図について、青ベースの表「多職種の動き編」と、赤ベースの表「入退院時に必要な情報編」と名称をつけ、ベースの色も分けたことで、それぞれ別の表であることが分かりやすいように整理した。公開・周知の方法については、市ホームページに掲載の上、MCSの全体グループへの投稿と、連携の肝となるケアマネジャーに対して、今年度内に実施する市主催の研修の際に、退院時連携加算を促すことと併せて対面で説明することを考えている。ホームページにはフロー図の説明とそれぞれのPDFのリンクを掲載した上で、備考として個別事例全てに該当するものではないこと、ケアマネジャーが既についている方を想定した表であることを記載する。またいずれのフロー図についても、退院前カンファレンスが1つの節目となるため、昨年度実施した退院時カンファレンス研修の動画リンクも参考として掲載する予定である。また部会の中で三師会の先生方から会を通じて会員への周知についても協力いただけると了承があったため、市から事務局に依頼する予定である。

(齋藤委員長)

大変な力作だ。青と赤に分けてあり、大変素晴らしい。一番これに関わるのはケアマネジャーだと思うが、何か意見や感想はあるか。

(伊藤委員)

入退院、特に退院で関わり合うときは、大きく身体状況が変わっているときで、今までと同じように生活を送れるかどうかを在宅側としては見極めなければいけない一

番重要なところだと感じている。このような形で流れに沿ったフローがあると、各ケアマネジャー、多職種も同じ質での対応ができ、大変ありがたい。

(齋藤委員長)

時系列で本当に分かりやすい。

(小嶋委員)

ここまで細かく記載してあるのはとても分かりやすく、ほかの職種が今、どういうことをしているのか、ケアマネジャーが何をしているかが分かってもらえるという点ではとても良い。特に、入院先の医療機関の1期入院時のところに「ケアマネジャーから連絡がない場合、介護保険証等から確認のうえ、入院について伝達」と書いてあり、とてもありがたい。病院から連絡が来ると、こちらでも話や連携がしやすい。

(齋藤委員長)

介護保険証から連絡先が分かるのか。

(小嶋委員)

担当の居宅介護支援事業所が介護保険証の一番右端に印字されている。

(齋藤(優)委員)

ケアマネジャーはどなたかと聞いても、家族が離れて住んでいると分からない方も多い。連絡いただくまでなかなか把握できなかつたり、在宅での状況が確認できないこともあるが、確かに保険証を持っている方はその確認もできるので、それが記載されているのは、皆が共通認識をもって動ける点ではとても良い。必要な情報編では、退院のときに各職種の人たちが知りたいことが書いてあり、ソーシャルワーカーによる違いを防ぎ、皆が同じ支援をするために参考にすると良いと思う。活用したい。

(森田委員)

入院中の様子は分からないことが多い。退院の準備、必要な場合の導入の提案、3期退院時、この段階から入れるのはありがたい。いざ家に帰ってから入れるのを忘れていたとばたばたすることも時々あつたり、急に入ってくれと言われることもあつたりするので、このように書いてあれば漏れがなくありがたい。

(齋藤委員長)

とても好評のようだ。大変な苦勞だったと思う。これを利用して、感想をフィードバックしていただくと良いと思う。

### (3) 小金井にし地域包括支援センターの移転について

(事務局)

既に御存じの方もいるとは思いますが、本会議においても移転の概要について共有する。既に移転しており、1月14日から移転先での業務を開始している。場所は本町4丁目の本町住宅の建て替えに伴い新たに竣工した建物の一画となっており、従前の場所

からは北東に約500メートル、利用交通機関は京王バスの中大循環で同一、駐車場も以前は徒歩数分かかっていたが、今は目の前となっている。国分寺市の市境の辺りの方など、一部アクセスが悪くなる方もいるが、圏域全体としては利便性が向上するものと考えている。

もともとは令和元年度に住宅供給公社から本町住宅の再生事業に伴いにし包括を誘致したい旨の打診があった。提案内容としては当時からも現状のとおりで、本町住宅の一部を取り壊し、北部に特別養護老人ホーム、南部に居住用建物を建て、そちらににし包括を移設するという内容だった。移転前後の比較として、賃料が微減し、床面積が増えた上で新築、かつ高齢化率が市内2番目に高い本町4丁目エリアへの設置ということでメリットがかなり多い提案であり、市としても断る理由が全くなかったという状況である。

外観は、本体とは別の躯体となっており、駐車場も目の前に設置していただいた。

この再生事業は、住宅供給公社としては初めてとなるシニア住宅も設置しており、にし包括の移設、特別養護老人ホームの本町けやきの杜の開設等と併せて「小金井本町あんしんすまいプロジェクト」と位置づけて住宅供給公社でプロモーションしている。このような取組は住宅供給公社としても初めてであったとのことで、1月16日に住宅供給公社の中井理事長と白井市長で建物の視察を行った。「小金井本町あんしんすまいプロジェクト」として、本庁住宅全体の再開発のエリアは左上の図の緑の部分、大体3分の1のスペースを一旦更地にし、本町けやきの杜や居住者用の住宅、その一面に包括支援センター、この3つを構築したというような経過となっている。1月16日に実施した市長視察では、J K Kと意見交換を行った後、建物の外観等を理事長と市長で視察した。当日は社協の亘理会長にもお越しいただき、記念撮影をした上で、公社理事長、市長、社協会長が新しく移った包括を視察した、という形で報道機関にプレスリリースした。住宅供給公社でも同じようにプレスリリースを行ったと聞いており、建物の設置と併せて包括の移設も広く周知できるよう進めた。

(齋藤委員長)

とてもいい場所だが、働き心地はいかがか。

(久野委員)

来所がすごく増えた印象がある。相談ではなくふらっと来る方もいれば、駐車場が目の前にあるので、家族の方もよく来るようになってきている。1月は4日の土曜日から1月11日の土曜日まで旧事務所で通常業務を行い、12日の日曜日だけで引っ越し、14日からまた通常業務だった。どうなることかと思ったが、どうにか今のところ滞りなく業務ができています。新しく、広く、仕事がしやすくなった。皆様の協力をいただき無事に終了することができた。この場を借りて御礼申し上げたい。

(齋藤委員長)

在宅の患者さんがいるのであの地域によく行く。ぜひ内部の見学に伺いたい。駐車場は1台しかないが、あれは障害者用の駐車場か。

(久野委員)

誰でも利用できる。

(齋藤委員長)

けやきの杜のほうを使ってもいいのか。

(久野委員)

おそらく使えると思う。

#### (4) 「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」について

(事務局)

昨年11月に都より事務連絡があり、こちらに記載の「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」を関係者と協議等の上、市区町村から1つ以上推薦されたいという内容だった。「1 概要」のとおり、医療法に基づく4つの医療機能確保に向けて、24時間対応体制の在宅医療の提供と他医療機関の支援、多職種連携支援を行う病院・診療所を「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」として医療計画に位置づけが求められていること、同医療機関は、圏域に1つ以上指定することを想定しており、都の場合は保健医療計画で一次保険医療圏を市区町村単位と定めているため、市で1つ以上推薦してもらいたいというものである。指定に当たっては、地域の関係団体との協議等により、市区町村から推薦し、3月に都のホームページで公表を行う予定である旨説明を受けている。指定する目標としては、2の(1)から(4)が東京都から示されている。

同医療機関に求められる役割は、指針に基づき6つの具体例が示されているが全ての取り組みを実施することが必須ではなく、地域の実情に応じて必要な取組を実施してほしいという案内と、実施していない事業を新たに行う必要はない旨の通知を受けている。市が把握している状況として(1)から(6)まで少し説明する。(1)については、今まさに医師会で、都の在宅医療推進強化事業補助金を活用しつつ、DXの推進と併せて取り組まれている内容かと思う。都の説明でも、同補助金を使った取組は(1)に該当するものであると説明を受けている。(2)については、他の保健医療サービス及び福祉サービスとの連携調整を担当する者と連携していることとされており、本市の場合は支援室があるので問題ないと考えている。(5)については、医療・介護連携推進事業等で多職種連携に係る会議に出席していることが望ましいとされている。また先ほどの(2)と同じように在宅医療・介護連携に関する相談支援窓口と連携していることというような条件が記載されており、現在多くの医療職者の方に本会議及び部会に出席いただいているので、基本的には条件を満たしている状況と認識し

ている。(6)については病院についての項目だと認識しているが、いわゆる後方支援病床の確保をしていることであると受け止めている。(3)と(4)の、研修の機会の確保やBCPの策定という項目については、市区町村単独で支援することが難しい内容と思われ、実際に都から市区町村の担当者への説明会の中でも、少し難しいのではないかという意見もあった。この項目については難しいところがあれば都に相談してほしいと説明があった。

以上の内容について、先日、齋藤委員長に相談し、現在、市から医師会に当該医療機関の推薦について依頼している状況である。添付資料に記載のとおり、医療機関の選定方法について、地区医師会からの推薦、もしくは在宅療養関係の会議体の活用が例示されていたため、本内容について報告の上、共有させていただいたところである。

(齋藤委員長)

東京都医師会で聞いたのは、最初の案は手挙げで誰がやっても良い、手挙げした方を指名するような形にするというものだったが、それでは商業的などところが入ってしまうのではないかという懸念から、市からの依頼で医師会を中心に推薦施設を決めていこうとなったということだった。補助金がもらえるということではないので、ただの名目的な、お題目的な役割になってしまうが、それでも中心になっていただければ、我々としても仕事がしやすくなるだろうと思う。まず医師会の理事会で詰めていきたい。今月のなるべく早い段階に一応の案を出して、また市と協議していきたいと思う。

(齋藤(敦)委員)

インセンティブがないという話だったが、この計画自体の中ではインセンティブがなくても、6つの枠にそれぞれいろいろアクションがある。これ自体には例えば診療報酬に何かしら出るようなことはないのか。

(齋藤委員長)

すぐこれに結びつくというところはないが、退院調整や退院会議をたくさんやれば、多少収入は増えるかもしれない。一方、担当の方を増やす場合は支出も増えるかもしれない。そういう意味でもやはり公共性のあるところにやっていただいたほうが良いと思っている。

(齋藤(敦)委員)

真面目なドクターが損ばかりしてしまう感じでは申し訳ない。実はこれは加算がつくと分かっていたら、こちらも安心してお願いできる場所もあると思う。

(齋藤委員長)

地域医療・介護を盛り上げていくためにやっていただけるという使命感を持ったところをお願いしたいと思っている。

(小嶋委員)



(6) は、特に入院機能がないところでも連携できる病院があれば良いということなのか。大きい病院に限られてしまうのか。

(齋藤委員長)

病院だけではないと思う。救急で受け入れなくてもいいのだろうと思う。

(齋藤(優)委員)

地域の受皿として受けられるのであれば良いと思う。

(齋藤委員長)

もし対象病院になったとしても、この6つのタスクを全部やらなければいけないという義務や新たなものをやる必要はないということなので、今あるものを充実させて、少し付け足していければ良いのだろうと思う。

(5) 各部会における検討状況について

(事務局)

(資料4-1) 各部会の検討状況を簡潔に表にした。前回の令和6年度第2回の本会議開催から本日時点までに開催した部会状況を示しており、上から部会名、部会の開催日、各場面における目指す姿、検討状況の概要、決定事項等、次回の部会開催予定日を一覧にしている。

各部会での検討状況については、各部会長から報告いただければと思う。

**【日常療養支援・多職種連携研修部会】**

(伊藤委員)

1月27日に昨年好評だった虐待研修パート2を引き続きかわさき社会福祉事務所の川崎氏に講師を依頼し実施した。多様化する社会で虐待に関してもいろいろな問題が重層的に重なり合ってより問題が複雑化しており、それを皆で共有して勉強できたと思う。

また、日常療養時における課題を検討する中で本人・家族のニーズの詳細な把握、役割の明確化についていろいろな意見が出た。ケアマネジャーの立場から申し上げると、役割の明確化というところでは、ケアマネジャーは大変活躍できる場があると思っている。ケアプランの2表、2枚目と3表を見たことはあるか。2表は介護サービスの内容や、中には家族支援の内容も明確に記載してある。そういったところで家族にも役割を分担し、明確化していくことで、在宅での介護体制がより継続的に行えると思っている。また3表では、本人の介護スケジュール、1日のスケジュール、週間スケジュールを一まとめにして主介護者に分かりやすく提示することができる。今、特に老々介護がほとんどだと思うが、やはり主介護者の認知力が低下しており覚え切れないところがある。幾つものカレンダーに書いている方も多く、それを3表という形で、

示すことが必要だと思っている。

今回の研修は今までと内容や切り口が異なる、高齢者に対するコーチング研修を予定している。

(事務局)

講師は、講師の派遣会社に照会し、推薦いただいた候補者の中で、部会の方に諮り決定した。医療・介護に特化しているわけではないが、高齢者に向けたコーチングの講義も可能と案内を受けている。

(齋藤委員長)

ケアプランの2表、3表の意味が初めて分かり、いい勉強になった。

コーチングというのはどういうことなのか。

(事務局)

コミュニケーションや声かけ、ニーズを引き出すためのアプローチ仕方などといった認識を持っている。部会であがった、家族のニーズを聞き出すことができない、本人がどのように支援してもらいたいのが分からないのは支援者側に傾聴の能力が足りない部分もあるのではないかという課題から、それを補うためにコーチングの研修を実施する流れになった。

### 【入退院支援部会】

(事務局)

部会長がまだ見えていないので、代わりに事務局から報告する。

部会では先ほどのフロー図について主に検討し、その成果は先ほど報告した。フロー図についてこれから周知・運用に入ることと、運用の中で見直していったほうが良いものにするのが今後の見通しである。もう一つは、先ほどのフロー図が、あくまで介護保険利用者、ケアマネジャーと契約している方が前提のため、ケアマネジャーがいない方、いない状態で入院された方の退院支援について同じようなフロー図、一定の多職種の動きの整理等ができたほうがいいのではないかということから、次年度以降はケアマネジャーがいない方版のフロー図を作成していくことが決定した。

(齋藤委員長)

ケアマネジャーがついていない方は要支援までの方ということになるのか。

(事務局)

介護保険サービスを全く使わずに入院し、退院時に介護サービスが必要になる方、脳梗塞などを想定して、そういった方が退院されるときにフロー図があったほうがケアマネジャーや地域包括支援センターなどが支援しやすいであろうと先日の部会で意見いただいた。

(齋藤委員長)

1期から始まり、ゼロ期はないということか。

(事務局)

おっしゃるとおり、入院時から始まるようなイメージである。

(齋藤委員長)

恐らくそういう方のほうが困っている方が多いのではないかと思う。期待したい。

(高橋委員)

包括としても、介護保険の認定がついていな方で退院する相談がかなり増えてきている。連携室の方と連携しながら、介護相当であればケアマネジャーさんを探しながら退院に向けた調整をすることもある。要支援になるのか、要介護になるのか分からない状態で退院する方もいるので、その場合にはケアマネさんと連携しながら介入することもある。そのような動きが全体で共有できると連携しやすくなるので、来年度期待したい。

(齋藤委員長)

余談だが、東京都医師会では地域包括ケアシステムという呼び方をやめようと動いている。システムというとなんか硬直した立派なものをつくっていかねばいけないというイメージになってしまうが、地域包括ケアネットワークは連携を主体にして考えていく形のほうがいいのではないかということで、これからそれを提唱していくことになりそうだ。

#### 【急変時対応・看取り支援部会】

(大井委員)

部会で看取りのリーフレットをつくることにこれまで時間を割いてきたが、食べる支援の作業があまり進んでいない。食支援に関わるアンケートを取って、一度みんなで内容を確認したところである。食支援のアンケートは、実際に医師、看護師、リハ職、栄養士、薬剤師、ケアマネジャーの回答はあったが、ヘルパーの回答が少なかった。食事の場面を実際見ているのではないかと思うので、ヘルパーにこのアンケートに参加してほしい気持ちがあり、おそらくもう一度このアンケートを取る流れになると思う。食べられなくなったときに例えばエンシュアみたいなものが処方されたりするが、多くの方がそういうものはおいしくないと言って飲まないなど、現状と少しギャップが生じたりもしている。本人が食べたいものと食べて大丈夫なものが一致しないというような、いろいろな問題が現場では起こっているので、その点についてどういう取組をしていくのかを含めて検討していく段階に入っていく。

#### 【ICT連携部会】

(田中委員)

今後の予定を説明する。令和6年度第2回ICT研修会は3月3日19時からWebで開催する。MICTコンサルティングの大西大輔氏を講師に招き、令和6年診療報酬改定におけるICTの利活用ということでお話をいただく。ぜひ参加いただきたい。次年度のMCSの研修会については、MCSにチーム機能という新しい機能が追加され、今月から運用されているのでこれに関する研修を行う予定である。この新機能の追加によって、これまでMCSは個人のアカウントで患者グループに入って情報を共有していたが、チーム機能によって事業所や医療機関ごとの登録が可能になり、情報共有をスムーズに行うことができるようになるようだ。こちらの研修会は、令和7年4月7日19時から医師会館を使い、ハイブリッド形式で行う。MCSを運営するエンブレス社にチーム機能の説明と使い方についてレクチャーしてもらう予定なので、タブレットを持ってきていただいて、ぜひ参加いただきたい。令和7年度第2回ICT研修会に関しては今年の10月頃を想定している。東洋大学の高野龍昭教授に医療と介護のDXに関する内容で講演を依頼している。詳細が決まり次第また報告する。

また以前、森田先委員よりオンライン診療に関する研修をしてほしいというリクエストがあったが、これに関しては再来年度に実施することを考えている。昨今電子処方箋を一部運用している医療機関・薬局が出てきているかと思うが、再来年になるとまたさらに電子処方箋の利用が活発になるのではないかと考えており、オンライン診療に絡めて電子処方箋の話ができれば良いと思っている。皆様からもリクエストがあればお知らせいただきたい。

(齋藤委員長)

大変活発に活動していただいている。

(高野委員)

ICT部会はとても活発に研修を企画されていて、ぜひ参加したい内容だと思った。次回必ず参加したい。

(田口委員)

私もICT部会に参加しており、田中委員がおっしゃるとおり皆さんの興味があるICTについてぜひ研修ができれば良いと思っている。MCSも小金井市は活用率が高いということなので、より皆さんに普及できるように頑張っていきたい。

(齋藤委員長)

2025年までに地域包括ケアシステムをつくることを目的に会議が行われている東京都の地域医療構想調整会議の中に在宅療養ワーキングというものがあり、多職種の連携をいかに迅速にスムーズにやっていくかという議題で話をしている。2025年になってしまい、次は2040年に向けて取り組む。その会議の中ではやはりMCSをいかに使っていくことよりもいかに広めていくか、使っていない人にそのよさを

分かってもらってどんどん広めていって輪を大きくしていこうという話をほとんどの方が言っていた。MCSは使わず嫌いな人がたくさんいると思うので、ちょっとやってみてと声をかけることが大事だと思った。

(小嶋委員)

I C Tは、何の略なのか。

(齋藤委員長)

I n f o r m a t i o n a n d C o m m u n i c a t i o n T e c h n o l o g y。

(小嶋委員)

MCS以外のインターネットを通じて行えるケアや見守るケアも重要視されている。インターフォンが鳴ったときにスマホのアプリで誰が来たか見られる、認知症の独り暮らしの人たちが詐欺に遭わないための仕組み、見守りカメラ、徘徊が心配なときは猫の首輪につけられるくらいの小さいGPSもある。そのようなものの紹介や、実際の使い方の例があると幅が広がって良いと感じた。

(齋藤委員長)

貴重な意見だ。以前、徘徊してしまう方が早く見つかるようにというシステムがあったと思う。

(田中委員)

みまもりあいシステムの研修をやった。みまもりあいシステム以外に何かI C T関連の事業はあったか。あればそれに絡めた研修会をやっていくのも良いと思う。

(事務局)

I C Tを使った見守りは、徘徊の恐れのある方にコードのついたシールを貼って、コードに連絡いただくと匿名性を保ったまま発見できるという仕組みがある。

I C Tを使った見守りのサービスはかなり増えてきており、民間企業などでも例えば電気をつけると通知が行くもの、スケジュールをアプリ上に入れておくと、スケジュールの時間にコールセンターから本人に電話するような仕組みなど、スマートフォンを使ったI C Tを利活用した見守りサービスがかなり増えてきていると思う。一方で、いろいろな事業者が出てくると、詐欺などの担保が大事になってくる。そういったところも部会を通じて市内の従事者の皆様に広く周知できると良いと市の担当として思っている。

(齋藤委員長)

そのような事業を行っているのは営利企業が多いから、詐欺ではなくても料金が高い可能性がある。それは困るので、市の補助などがあると良いと思う。

全体を通して何か意見はあるか。

(中村委員)

今日認知症の方の訪問に行ったら予定を全く把握しておらず、訪問看護師が怒られながら入っていった。スケジューリングがICT化できてお知らせが行く仕組みがあれば、対策にもなると思う。いろいろな情報を発信していただけると助かる。

### 3 その他

(事務局)

1点目は委員の任期について、本会議の委員の任期は令和7年3月31日までとなっており、本日の会議が任期中最後の会議となる。2年間円滑な審議に協力いただき、御礼申し上げます。市からは各団体に改めて推薦依頼を送付する。各部会も任期は同一なので、併せて推薦依頼をする。

2点目は次回会議の日程について、本会議は年3回の開催を予定しており、次回は令和7年7月10日木曜日の開催を予定している。もし都合が悪い場合は改めて調整するので事務局に連絡いただきたい。委員の変更等がある場合は、会議日程を含めて各所属団体内での引継ぎに協力いただきたい。

### 4 閉 会